

「大阪・関西万博」とくしま挙県一致協議会 会議録

I 日時 令和4年1月28日（金） 午後2時～午後2時45分

II 会場 JRホテルクレメント徳島 4階クレメントホール

III 出席者（47名中43名出席（代理含む））

飯泉嘉門会長、寺内カツコ副会長、野地澄晴副会長（代理）、岡本富治委員、
布川徹委員、坂田千代子委員、林香与子委員、梯学委員、
矢田博嗣委員、濱野正裕委員、杉田弘樹委員、中西庄次郎委員（代理）、
長江郁哉委員（代理）、寺井正邇委員（代理）、杉本直樹委員、久米順二委員（代理）、
山本仁志委員、坂本優子委員（代理）、大山芳香委員、瀧康宏委員、
山下一夫委員（代理）、田村禎通委員、松重和美委員、平山けい委員、
多田博夫委員、安田哲也委員、岩丸正史委員、内藤佐和子委員、
影治信良委員、長岡奨委員（代理）、板東豊彦委員、大谷竹人委員、
川越敏良委員、米田豊彦委員（代理）、表聖司委員、岡元直委員、
松本侯委員、稲井芳枝委員、佐藤勉委員、黒石康夫委員、
加渡いづみ委員、青木正繁委員、近藤明子委員

IV 次第

議題1 2025年大阪・関西万博に向けて
公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
堺井 啓公 広報戦略局長

議題2 大阪・関西万博「とくしま活性化・魅力創出」方針（案）等

《配付資料》

資料1 2025年大阪・関西万博に向けて

資料2 関西パビリオンについて

資料3 大阪・関西万博「とくしま活性化・魅力創出」方針（案）

V 会議録

（事務局）

それでは定刻が参りましたので、ただ今より「大阪・関西万博」とくしま挙県一致協議会を開催いたします。なお、本日の会議は14時45分を目処とさせていただきますと思いま

すので、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、開会にあたりまして、飯泉知事より御挨拶を申し上げます。

(飯泉知事)

本日は第一回となります「大阪・関西万博」とくしま挙県一致協議会を開催いたしましたところ、皆様方には大変お忙しい中、また、コロナ禍で大変な状況の中、こうして御出席を賜り、誠にありがとうございます。また皆様方には、日頃から県政発展のために、それぞれのお立場で大変御尽力をいただいているところであり、日々の御尽力に対し、心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

さて、2025年、迫ってまいりました、大阪・関西万博。その前の万博といたしますと、1970年の大阪万博、このとき、徳島の立ち位置につきましては、対岸の千里丘陵、こんにちは太陽の塔、こうしたイメージで、日本、万博行われるんですってね、こうした立場がありました。しかし、今回の大阪・関西万博はその名でもわかるように、大阪府、大阪市だけではなくて、関西広域連合をあげてその誘致に成功し、徳島も関西広域連合チャーターメンバーとして、特にドイツ・ニーダーザクセン州とはもう10年を超えた友好提携を行い、ロビー活動、特にドイツを中心としてヨーロッパの皆様方をお願いをさせていただき、そして結果として、大阪・関西万博誘致、成功をしたところでありまして、このたびの立ち位置というのは、大阪・関西万博を関西広域連合の一員として成功に導く、この役割を持っているところであります。

では、どのような形で大阪・関西万博を成功に導いていくのか。まずはなんとといっても、世界的なパンデミック、このコロナ禍、これを克服をし、そしてアフターからポストコロナへと、新たな基軸をつくっていく、まさに未来に向けてのショーケースとなるものでありまして、その意味では今回のコンセプト、未来への実験場そのものとなるところであります。また、徳島におきましては、これまでもSDGsをはじめとし、2050年カーボンニュートラル、自然エネルギー協議会会長県としても、これまで牽引をしてきたところでありまして、その意味ではこれから進んで参る2050年までの、まずは、2030年、国連加盟193カ国がこの実現を目指さなければならないSDGs、17のゴールズ、そしてその前にこの大阪・関西万博。このSDGs達成についてもそうありますが、必要となるDX、GX、2つの未来技術をどのように駆使をしていくのか、その実験場にもなるところであります。例えば、DX。一昨年、日本ではようやく5G商用化をされたところであり、遠隔医療をはじめ、スマート農林水産業、i-Constructionと、多くのモデルが徳島から打ち出されているところでありまして、日本は悲しいかな、実はこの5G戦略、さらにはその先となるBeyond 5G戦略、必ずしも世界の先陣を行っているのではなく、どちらかといえば後塵を拝す状況になっているところであります。そうした意味でもこの大阪・関西万博をまさに、この「Beyond 5G Ready ショーケース」として、世界に対し日本の未来通信技術といったものをしっかりと打ち出していく、そうした絶好のチャンスでもあるわけで、関西パビリオンとともに、徳

島としてもしっかりとパビリオン形成をする中で、徳島をはじめとする関西元気文化圏、人形浄瑠璃をはじめとし、たぐいまれな文化が息づくこの関西圏ということでもあり、これからの未来技術をいかにこのショーケースの中で世界へ向けて示していくのか。その意味で、今回大変重要な挙県一致協議会となります。これまでも徳島県におきましては、徳島が、さあ伸るか反るか、どちらへ向かっていくのか、どんな形で進めていくのか、そうした場合にこの挙県一致協議会、開催をさせていただいております。関西広域連合に四国から入るのか、このときにも実は開かせていただいたところでもあります。是非今日は、皆様方から様々な各方面からの御意見なども是非、拝聴させていただきまして、徳島としてこの関西広域連合の一員というだけではなく、徳島としてどのように大阪・関西万博に取り組んでいくのか、こうした点について、これから方針を定めていければと、大変重要な会となりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。当協議会の設置要綱第4条第1項に基づき、当協議会は飯泉知事が会長を務めることといたしております。また、同条第3項に基づき議事につきましては、会長であります飯泉知事をお願いしたいと思います。それでは引き続きよろしくお願い申し上げます。

(飯泉知事)

それでは、早速会長として議事を進めさせていただきたいと存じます。まず最初に要綱に基づきまして、副会長さんの選任を行わさせていただきたいと存じます。本協議会は「万博」という未来志向の大きなイベントを強力に推進をしていく、挙県一致の協議会であります。そこには大きな目的といたしまして、徳島への人の流れ、これを呼び込んで地域活性化を行っていくんだ、特に地域経済という観点。また、万博を未来技術のショーケースといたしまして先端技術を世界に示していく場として活用していく2つの面が挙げられるところであります。そこで副会長さんには、地域経済活性化の観点から徳島県商工会議所連合会の寺内会長さんと、先端技術開発に取り組んでいただいている教育・研究分野から、徳島大学の野地学長さんのお二人をお願いをしたいと存じますが、皆様方いかがでございましょうか。

(会場内)

異議なし。

(飯泉知事)

ありがとうございます。それでは寺内会長さん、また、野地学長さんにも副会長への御就任、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

それでは議事に移らさせていただきます。本日の次第に基づきまして、「2025年大

阪・関西万博に向けて」と題しまして、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会事務局の方から堺井啓公広報戦略局長さんに御説明をいただければと思います。堺井局長さん、どうぞよろしくお願いいたします。

(堺井局長)

ただいま御紹介に預かりました、2025年日本国際博覧会協会広報戦略局長の堺井でございます。本日はよろしくお願いいたします。「大阪・関西万博」とくしま拳県一致協議会の第一回という貴重な機会に、このようにお話をさせていただく機会をいただきまして誠にありがとうございます。徳島にお伺いしたかったのですが、新型コロナウイルスの感染拡大もございまして、オンラインで参加させていただくことになりました。15分ということで駆け足でございますが、「2025年大阪・関西万博に向けて」ということで、徳島県の皆様に御説明をさせていただきます。また、配布資料につきましては、都合により27ページまでとしてございます。御了承ください。

先ほど飯泉知事に御紹介いただきましたが、2025年に大阪・関西万博が開催されます。ご覧の夢洲が会場になります。大阪湾でまさに海に囲まれた島、夢洲で開催されるということで、ここから海を越えて淡路島が見え、また徳島も見えるという場所でございます。非常に海に開けた場所で開催することになります。これは航空写真ですけれども、交通面では大阪メトロ中央線が一駅延伸されて、夢洲に新駅ができます。また、舞洲側の夢舞大橋と、咲洲側の夢咲トンネル、このふたつの道路でつながることになります。そして船の発着想定場所と書いてございますけれども、夢舞大橋の袂のところに浮棧橋などを設置して船が発着することを考えております。これによって海上からもアクセスができると考えております。

開催概要でございます。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、コンセプトは「未来社会の実験場」です。いのち輝く未来社会とはどのようなものなのかということの1つに、2030年为目标となっているSDGsがあります。社会課題を解決することで、持続可能な社会、誰一人取り残さないという社会を達成させていく、そうした行動変容につながる取組などを万博で紹介していく。また、2030年、2050年に来るであろう未来社会、それをこの2025年の断面で切り取って見せていく、体験していただく、そういった万博にしていきたいと思っております。開催期間は2025年4月13日から184日間、半年間の開催になります。想定来場者数は2,820万人となっております。世界から150の国、また、25の国際機関からのパビリオン出展、公式参加を目標にして、ただいま活動しているところでございます。

大阪・関西万博の意義としては、まさにいのち輝く未来社会へ、新型コロナウイルス感染症を乗り越えた先の新たな時代におきまして、世界が1つになることに意義がある。そうしていのち輝く未来社会のありようを共有していく、2025年以降の世界の新たな一歩となると考えています。次に、Society5.0の実現ということで、スマート社会に向けた新たな技術、サービス、システムの社会実装をやりたいと思っています。また、SDGsの達

成という非常に大事なテーマもございます。SDGs+beyond という形で、さらなる将来に向けた取組についても示していきたいと思っています。そして、日本飛躍の契機にしていきたいと思っています。DXによる社会変革の新たな形を示していく。地球環境問題の新たな挑戦の形を示していきたいと思っています。経済、社会、文化あらゆる面で大阪、関西のみならず、日本全体のさらなる飛躍の契機としたいと思っています。

大阪・関西万博のプロデューサーをご紹介します。会場デザインのプロデューサーは藤本壮介さん。会場運営プロデューサーの石川勝さん。テーマ事業プロデューサーとして、その業界・分野で非常に実力のある、いのちを表現するのにふさわしい方を8名擁しています。テーマ事業のプロデューサーということで、8名がそれぞれパビリオンを建設し、世界に「いのち輝く未来社会のデザイン」を見せていくという形になります。それぞれのいのちを知る、いのちを育む、いのちを守る等々で活躍していただくこととなります。また、催事企画プロデューサーとして小橋賢児さんをお願いしています。こうしたプロデューサー陣による構成で考えています。

万博への参加メニューとしましては、企業、自治体、団体の方々が参加していただけるメニューを多様な形をご用意しています。パビリオン出展は、民間のパビリオンとして9区画を募集いたしましたので、間もなくその結果を発表したいと思っています。これによって、民間パビリオンの出展者が揃ってくるところでございます。テーマ事業協賛は、テーマ事業プロデューサーのパビリオン等になります。未来社会ショーケース事業は、万博が未来社会の実験場という形で、未来社会で行われるものの実装、あるいは実証をしていくものと考えています。また、会場整備参加、運営参加というものがございます。様々な施設、物品、役務の提供をしていただけることとなります。他には「TEAM EXPO 2025」のプログラムへの参加ということで、共創活動を登録して、万博の会期前から参加していただきます。これは後ほど詳しくご説明させていただきます。次に催事参加という形でイベントへの参加がございます。これも後ほど詳しく説明させていただきます。その他、営業参加、万博応援参加というのがございます。これらが皆様に万博へ参加していただける形態についてのご説明でございます。

未来社会ショーケース事業ということで、6つに分類した万博の1つ目、スマートモビリティ万博は、会場内のパーソナルモビリティの他、ロボットに物流や清掃を担っていただく。あるいは空飛ぶクルマに乗る体験をしていただくといった領域です。またデジタル万博は、スマートフォンを通じて、来場者に対するサービスを提供していく。例えばいつでもどこでイベントがあるか、また、物品の購入もスマホを通じて行うことができるほか、予約の確認などもできます。また、自動翻訳システムを導入して、言葉の壁をなくす取組もございます。5GやBeyond 5Gの高速大容量通信環境によって、それらの技術の実現を図っていこうと思っています。また3番目、バーチャル万博がございます。こちらは来場者に対し、会場内でスマートフォンを経由したXRの演出をするものであるほか、会場に来られない方に対しても、万博の一端をバーチャル会場として提供していきたいと考えております。アート万博は、

会場の中で、最先端技術を使った形エンターテインメントを見ていただくもので、プロジェクトマッピング、水上ショーなどがごございます。パブリックアート、パレードなども開催いたします。グリーン万博はカーボンマイナス、カーボンネガティブ、そういった未来社会の実験場としてふさわしい技術を提供していきたいと思っております。電力の話もそうですが、水素の活用を含めた技術をお見せしたいと思っております。また、最後のフューチャーライフ万博は、未来の都市、未来の住宅はどんなものだろうかということで、未来の生活をここで体験していただきます。ヘルスケアや食のほか、未来への行動ということでは、「TEAM EXPO2025」プログラムのベストプラクティスの展示なども行う予定でございまして、こういった体験ができるエリアを作って、未来をお見せしたいと思っております。

続きまして、「TEAM EXPO 2025」プログラムです。こちらがまさに万博のテーマである、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。自分はこういう未来社会を作っていきたいんだということを宣言しまして、それに向けた活動を行っていくことで、未来社会を実現していく。そういったプログラムを提供させていただいております。一人、あるいは一企業の力では実現することはできないということでも、このプログラムに参加していただいて、共創を行い未来社会を創りあげていくということをお願いしたいと思っております。このプログラムは万博の会期前から参加できるものでございます。共創チャレンジ、あるいは共創パートナーとして、共創チャレンジを支えていく方々といった構成となっております。自治体におかれても、あるいは団体、企業の皆様におかれても、このプログラムに参加できますし、していただいております。いくつか例を申し上げますと、京都府亀岡市の霧の芸術祭とありますが、地域課題をテーマとして、それを様々な方々にアプローチして、世の中を変えて魅力ある町づくりをするという共創チャレンジであったり、体験交流型の観光を目指していくことを打ち出していくような取組。竹林整備をしながら自然を意識し、また体験ができるような活動モデルを形成していくというものがあったり、日本みどりのプロジェクト推進協議会の緑を大事にしながらも、持続可能な社会モデルをいかに実現するかということに取り組んでいくプロジェクトがあったり、田園都市の未来社会創造といった取り組みなどがまさに進んでおります。

すでに300を超えるプログラムが登録されております。共創チャレンジはウェブサイトですべての活動を見ることができ、専用ロゴマークを使用して活動を展開することができます。またこうした取組の交流や発表の場を設けさせていただいて、そこで様々な参加者同士の交流によって、社会課題を解決する取組に展開していきます。それらの活動の中で、ベストプラクティスという形で優れたものについては、万博会場で披露ができる仕組みを設けていく予定でございます。

活用ガイドンスについてでございますが、ホームページでそれぞれの活動内容を活動状況とともに更新していただくことも提供させていただいております。また、催事につきましては、イベントをしっかりと開催させていただきます。イベントを行う催事場やギャラリー、メッセ会場が用意されていて、そこで様々なイベントを開催することができます。催

事については、2023年4月から参加を募集したいと考えております。営業参加として、飲食や物販施設も提供させていただきます。そして大阪・関西万博の機運醸成も進めていきます。すでにロゴマークがございますが、この3月にはキャラクターが登場して参ります。こうしたロゴマークやキャラクターを、商品やサービスに使用していただくことも可能でございます。この夏ごろから、そうしたライセンス商品の受け付けを開始する予定です。これは皆様に活用していただけるものとなっております。こうした取組を通じて、万博開催の機運を高めていきたいと思っております。

万博のために多くの方が大阪・関西に集まって来ていただく形になります。海外からのお客様は今350万人ということで考えてございますが、万博で来られた方をいかに万博だけでなく、周辺地域にも来ていただけるか。例えば、万博のテーマのいのち輝く未来社会につながるような取組をされている地域に、お客様をお招きして、その地域で楽しんでいただく、取組を体験していただくということができればよいと思っております。非常に観光とのつながりは重要視しておりますので、そうした取組が是非、結実すればよいと思っております。

説明は以上でございますけれども、様々な形で万博を活用していただいて、そして万博を機に様々な人の交流、またビジネスの展開、そういったものが期待されるところでございます。そうした皆様との連絡を密にさせていただきながら、実現をしていきたいと思っております。徳島県の皆様の万博への参加をお待ちしておりますし、そういったことを飯泉知事をはじめ、徳島県の皆様と実現して参れたら幸いです。非常に期待しております。どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

(飯泉知事)

堺井局長さん、どうもありがとうございました。堺井局長さんにはこの後もこの会議に参加をいただきたいと存じます。

それでは議題の2つ目となります、本県の取組の基本コンセプトとなって参ります、大阪・関西万博「とくしま活性化・魅力創出」方針(案)につきまして、事務局から説明をお願い致します。

(事務局)

それでは説明させていただきます。まず、関西広域連合のパビリオンについて説明いたします。資料2を御覧ください。パビリオンの位置は資料の右上、東エントランスに近く、多くの来場者で賑わう場所に位置しております。出展のテーマは、「いのち輝く関西悠久の歴史と現在」であり、具体的な展示案といたしましては、まず、関西広域連合全体を紹介する関西棟がパビリオン全体の入り口、エントランスとして来場者を迎え入れ、その後、各府県市棟に移動する形となります。各府県市棟は出展を希望する府県、現時点では徳島県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県ですが、それぞれ独自の出展ゾーンを確保し展示を行う場所でございます。

次に、大阪・関西万博「とくしま活性化・魅力創出」方針（案）についてでございます。資料3を御覧ください。これは本県が、万博への参画、情報発信、展示に向けての考え方、方向性を示すものでございます。はじめに「1. 大阪・関西万博が目指すもの」を御覧ください。先ほど堺井局長様から御説明があったとおり、万博全体のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、コンセプトは「未来社会の実験場」であります。「2. 徳島県が参画する意義」でございますが、本県が関西広域連合の一員として誘致を実現させた大阪・関西万博を千載一遇のチャンスと捉え、光をはじめとする先駆的な未来技術、魅力ある食や、世界に誇る文化を発信し、新たな人の流れを創出することを合わせて、次世代を担う子どもたちが万博を通じ、未来社会の夢や希望を実感することで、ポストコロナ時代における本県の社会と経済の発展を実現することとしております。次に「3. コンセプト」でございます。万博会場でも工夫を凝らした展示をいたしますが、あくまで「ゲートウェイ」、つまり入り口であって、徳島県全体が「まるごとパビリオン」であるという考え方で、徳島の魅力、先駆的な取組をまるごと実感、体感するなら徳島に来てください、こちらが本来のパビリオンです、というコンセプトとしております。そして本日も各会、各層の皆様にお集まりいただいておりますが、県民が参画し、県民が創る万博にしていきたいと考えております。「4. 取組方針」といたしましては、「(1) 持続可能な社会づくりで世界をリード」といたしまして、G20消費者政策国際会合で評価された「消費者行政・消費者教育」をはじめとする、本県の先進的なSDGsの取組みを深化させ、普及を推進するとともに、究極のクリーンエネルギー「水素」や「自然エネルギー」の利用拡大に、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けた取組みを加速し、世界の課題解決に向けた対策を徳島から示して参ります。また、「(2) 未来技術のショーケースを世界に展開」として、徳島がリードする、Beyond 5Gを担う「次世代“光”技術、人の肉眼を超える8Kスーパーハイビジョンを活用した「遠隔医療」など、先端技術による近未来の姿を提示するとともに、世界初の「DMV」の本格営業運行、「スマート農林水産業」や「i-Construction」など、人口減少社会における、持続可能な地域づくりの処方箋を、課題解決先進県として世界に示して参ります。「(3) リアルとバーチャルの融合で世界に発信」として、インターネット上の「バーチャルパビリオン」を活用し、万博開始前から本県の魅力を戦略的に先行発信して、観光誘客を含め、いち早く世界との交流拡大を推進するとともに、展示に当たってはAR、VRの技術を駆使し、「リアル」と「バーチャル」の両面から、東京オリンピック、パラリンピックで好評を博したすだちや阿波尾鶏などの豊かな食材や、世界に誇る阿波踊り、阿波人形浄瑠璃、阿波藍といった、日本を代表する「あわ文化」を実感できる場を展開して参ります。そして、一番下でございますが、2025年の「大阪・関西万博」で創出されたレガシーを、2030年、万博の理念である「SDGs達成」に結びつけ、県民のいのち輝く「徳島の未来社会」をデザインして参ります。この方針（案）を基にして今後、大阪・関西万博におけるコンテンツの選定や発信戦略、展示等の具体的な取組、基本計画の策定など、見解をお示しした上で進めていくこととなります。皆様にいただいた意見を踏まえ、徳島全県を舞台に、オール徳島で万博を創り

上げていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

(飯泉知事)

はい、ありがとうございます。それではここからは、皆様方に2つの御説明も含めて御提案をいただければと思います。いかがでしょうか。挙手をいただければと思います。はい、大谷委員。

(大谷委員)

座ったままで失礼いたします。日本労働組合総連合会徳島県連合会で会長をしております大谷と申します。ただいま御説明いただきました、「とくしま活性化・魅力創出」方針(案)の「2. 徳島県が参画する意義」の中で、2行目に魅力ある「食・文化」を発信し、とございます。当然あわ文化といえ、徳島として世界に誇る阿波踊りがございます。これを具体的に発信、活用していく策として、「4. 取組方針」の中の(3)には、リアルとバーチャルの融合と世界に発信という中で、バーチャルパビリオンを活用し、徳島の魅力を先行発信とございます。現時点においてもVRいわゆるバーチャルリアリティ、仮想空間の発達は目覚ましいものがございます。2025年までには、いわゆるメタバース、超越効果の世界がリアル社会を席卷するとも言われております。徳島県としても、これらを活用した阿波踊りを世界に発信をしながら、パビリオン等においても、戦略的に取り組まれる必要が大きいと感じております。以上でございます。

(飯泉知事)

ありがとうございます。DXの分野ですね。こちらについて頂いたところであります。それでは、ほかにいかがでしょうか。

はい、どうぞ。青木委員。

(青木委員)

徳島県総合計画審議会「未知への挑戦」推進部会の青木でございます。よろしく願いいたします。私、関西広域連合協議会の委員も務めさせていただいており、令和2年12月5日に関西広域連合協議会の大学生との意見交換会のときに、大阪・関西万博を契機とした関西の地域創生ということを考えさせていただいた経緯がございます。その時にも14大学18チームの方が政策提言をした中で、この万博会場において、各都道府県が食材のブース等を出展して、缶詰であったり徳島の色んなものを持って行って、実際に外国の方に味わっていただく、それをお土産にしていこうなどというアイデアが出たのを思い出したので御紹介をさせていただきました。是非とも、資料3の「徳島県が参画する意義」の未来社会の「夢や希望」、まさに若い世代やこれからの教育の現場としても、このパビリオンや万博を私は使うべきだと思っております。もちろん修学旅行や学習でも、是非とも教育委員の皆さま

らどうぞ御活用していただければと思っておるのが1点。それともう1点は、やはり会場に行かなければいけません。もちろんバーチャルの世界も大事ですけども、やっぱり行ってこそ、会場の雰囲気とか体験というのが、僕は大事だと思っております。是非とも、海上交通、インフラのことですが、多分このパビリオンを考えたときに、西日本の他の都道府県の方も、船でどうだっという話が絶対出てきます。それよりも先に、徳島県はこのパビリオンの横に海上交通、船から世界初の海陽町のDMVに乗って来てくださいというような案と、観光のための会衆というのを、先手先手で打って、徳島県挙県一致として、この大阪・関西万博を成功に導いてほしいなと思っております。以上でございます。

(飯泉知事)

ありがとうございます。この海上交通は大変大きなポイントとなりますので、関西広域連合委員会の中でも、私の方からも今の青木委員さんのような形を提言をさせていただいておまして、具体的にこれを進めていこうということです。他にいかがでしょうか。

では先ほど、日本労働組合総連合会徳島県連合会の長谷川会長さんから出ましたので、経済会の坂田委員さんよろしいでしょうか。

(坂田委員)

徳島経済同友会の坂田でございます。万博というのはまだ遠い未来のことだと思っていたんですけど、先ほどの説明で、本当に身近に感じる事ができまして、徳島の未来のチャンスなんだなということがよくわかりました。ありがとうございます。SDGsの取組というのは、徳島は全国でも先進県で有名なんですけれども、いざ県民の意識からいうとまだそこが実感できてないところもありますので、それを県民が実感できるような取組になればいいなと思います。それと、経済同友会の文化スポーツ委員会で、三好長慶のNHK大河ドラマ化に向けて活動しているのですが、そのエリアがちょうど近畿圏ということで、2025年に向かいます。是非、一緒に活動できればいいなと思いました。岡本様も引き続きよろしくお願いいたします。

(飯泉知事)

はい、ありがとうございます。今ちょうど、坂田委員さんからSDGs先進県という話がありました。皆様方にこちらのフォルダをお配りをさせていただいております。講談社のFRaUなんですけど、実は講談社のFRaUがS-tripということで、Sがサステナブル、SDGsの第一号として、徳島をまるごとSDGs先進県として、まず創刊号でこれをPRいただいておりますので、中身がこれなくて申し訳ないところなんですけど、こうしたものでも評価をいただいているところであります。

今、NHKの大河ドラマのという話も出ましたので、今度は言の世界を代表して、表委員さんいかがでしょうか。

(表委員)

NHK 徳島放送局の表です。我々放送局の立場で、各国家的イベントでいうと、おそらく開幕日の1年くらい前からかなり情報発信の量が増えていくと思います。もちろんその閉会まで、様々な情報発信をするんですが、そこに全力で立ち向かうには、やっぱりそれまでの準備が極めて重要だと思っております。つまり、先ほど坂田委員からあったように、まず、地元徳島県の中で認識が共有されて、万博に向けて盛り上がるっていうのも大事かと思えます。そういう中で、様々な徳島の魅力のコンテンツの1つに、例えば先ほど、三好長慶の名前が出ましたけれども、郷土の歴史的な人物を1つ組み合わせるのも手なんじゃないかと思えます。ただ、同じようなことも多分他のところも考えると思うので、やっぱり先手必勝ということだと思いますので、そこは挙県一致のこの場をうまく活用して、パワフルにやっっていければなと思えます。以上です。

(飯泉知事)

どうもありがとうございます。1年前がポイントだという話をいただいたところでもありますし、様々なコンテンツをとということで、そうなってくると今度は観光の世界でも迎え撃たなければならないということですので、矢田委員さん、いかがでしょうか。

(矢田委員)

徳島県観光協会の矢田でございます。2025年に向けて、我々、観光関連事業者も非常に期待するところでございまして、コロナで外に出たいというマグマが溜まりに溜まっておりますので、これを機に、それをいっぺんに爆発できることを事業者として期待しておりますので、これを機に、それをいっぺんに爆発できることを事業者として期待しております。そのためにはやっぱり、この会議の名前にもあります挙県、みんなで心を1つにできるかできないかというのが、1つの成功の鍵だと思いますので、その一員としてしっかりと努めて参りたいと思っております。以上でございます。

(飯泉知事)

はい、ありがとうございます。こうなるとまいますと、若い皆様方、大学生など、また、未来技術ということであれば研究開発拠点、知の拠点ということもございまして、ここは学の皆様方ということで、松重委員さんいかがでしょうか。

(松重委員)

四国大学の松重です。万博というのは未来に向けたっていうのもある。特に若い人、大学生もそうなんですけど、小中高含めて、ある面では学びの場でもあると。この期間に学ぶだけではなく、その前から少しずつ、例えばDX、GX、これに絡む教育、そういったような展開もあると思えます。それで、終わった後も大事だと思います。万博というのは我々が楽しむだけじゃなくて、本当に未来志向で、これが世の中に良い意味で反映するということだと

思います。もう1点の視点は、やはり実際に行ってみるといのは重要なんですけど、今情報ネットもありますので、できたらこれサテライト的なものを徳島の会場に作ってやりとりをする。そういうようなものを含めて徳島と、ここの万博会場、それからさらに世界、というような視点もあると思いますので、この中ではちょっとまだ入っていないんですけども、そういうふうな広がりがある、ないしは皆様を楽しめるような内容も検討されてはいかがかなと思います。以上です。

(飯泉委員)

ありがとうございます。先ほど大谷委員からも出たAR、VRですね。これらの活用と、今松重委員から出た、様々な形でのサテライトということで、実はそのコンセプトとしては、ちょうどこの徳島「まるごとパビリオン」。決して関西広域連合のパビリオンと徳島パビリオンだけというものではなくて、そこから未来技術、AR、VR、あるいは5Gの先のBeyond 5G、6Gを活用して、徳島に拠点を置き、逆に徳島全域をパビリオンとし、またそこから関西広域連合、あるいは徳島パビリオンを通じて世界に発信をしていくと、こうしたコンセプトをこの中に盛り込んでいければと思います。

またこうした活動につきましては、各事業者の皆様方も1つのビジネスチャンスとなるかと思うわけですが、当然ビジネスを行っていくにあたっては、そこにお金面的な支援も必要となりますので、金の世界を代表して、板東委員さんいかがでしょうか。

(板東委員)

皆様がおっしゃっていただいた通り、この万博は未来に向けた、徳島にとってもかなりのインパクトを出さないといけないと思っております、その上で金融の盛り上げとともに、おっしゃるとおり、県内の事業所の皆様に対して、新しいSDGsを含めた投資、それからこの大阪・関西万博に向けてのチャレンジに対して、金融面からも御支援させていただきたいし、我々も一企業としても積極的に御連携させていただきたいなと思っております。よろしく願いいたします。

(飯泉知事)

大変心強いバックアップのお話もいただきました。産、学、官、言、労、金ということでお話を聞いて参りましたが、後お一人くらいいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

はい。ありがとうございます。それでは皆様方からいただきました御提案につきましては、この資料3、まだわかりづらい部分があったかもしれませんが、そうしたものをより具現化をさせていただければと思います。まずはこの魅力創出方針をしっかりとまとめ上げて、そして今日はまず第一回のキックオフということで、2025年大阪・関西万博の成功に向かって、いよいよテイクオフとなりました。また、この2025年大阪・関西万博は、あくまでも目標ではなくて、さらにその先のおそらくコロナ後に一体何が起こるのか。これまで1

4世紀のペスト、その後は何ができたか、ルネッサンスができあがった。おそらく今回のパンデミックの後には、2030年に向かうSDGsの達成が出てくる。そしてさらにはその未来として、2050年カーボンニュートラル。おそらく世界が全く一変をする。そこに向けての2025年は、大変重要なマイルストーンとなりますので、是非、堺井局長さんにも先ほどお話をいただいたように、徳島県の参画に期待したいとお話がありましたが、博覧会協会、あるいは関西広域連合を挙げて、大阪・関西万博、国家の戦略プロジェクトを、しっかりとお支えしていただけたらと考えております。これからも堺井局長さんはじめ、今日ここに集われた皆様方にはよろしくお願いを申し上げたいと存じます。それではマイクを事務局の方にお返しいたします。

(事務局)

本日は有意義な御意見、御提言、誠にありがとうございました。本日、時間の都合により御意見を頂けなかった委員の皆様におかれましても、お気づきの点、また御意見ございましたら、事務局の方まで御連絡をいただければと思います。いただきました御意見につきましては、今後、基本計画の策定など、万博の推進に向けた施策にしっかりと反映をさせていただきたいと考えております。それではこれで「大阪・関西万博」とくしま拳県一致協議会を終了します。本日は誠にありがとうございました。